

VLBI 懇談会 2025 年度 総会資料

1. 2025 年度会計報告および会計監査報告（資料 1）

2024 年度 VLBI 懇談会シンポジウム（岐阜大学）は、対面およびリモートによるハイブリッド形式で開催した。3 回の役員会（2025 年 3 月、8 月、10 月）は、いずれもリモート開催のため役員旅費は発生していない。2024 年度シンポジウム（岐阜大学）の集録は現時点未発行のため、2026 年度予算として計上した。2025 年度シンポジウム（鹿児島大学）も、対面とリモートによるハイブリッド形式で実施した。天文台研究集会助成などの採択のため、会場費などの支出はない。資料 1 の通り、2025 年度の会計監査の結果を報告する。

2. 2026-2027 年度の役員選挙の結果（資料 2）

次期（2026-2027 年度：2026 年 1 月から 2027 年 12 月）における会長、事務局長、機関代表、全国幹事を含む役員選挙を実施した。投票期間は 2025 年 10 月 26 から 11 月 2 日とし、ウェブ投票にて実施した。開票作業は村瀬建（岐阜大学）、佐野栄俊（岐阜大学）の 2 名で担当した。有効投票数は 60 であった。開票の結果を報告すると共に下記の通り次期役員が決まった。

会長： 小林秀行
事務局長および事務局： 藤沢健太（事務局：山口大学）
全国幹事： 赤堀卓也、今井裕、小山翔子、岳藤一宏
機関幹事： 関戸衛（情報通信研究機構）
青山雄一（国立極地研究所）
米倉覚則（茨城大学）
中川亜紀治（鹿児島大学）
村瀬建（岐阜大学）
土屋史紀（東北大学）
新沼浩太郎（山口大学）
岩田悠平（国立天文台）
石垣真史（国土地理院）
土居明広（JAXA/宇宙科学研究所）
小川英夫（大阪公立大学）
宮本祐介（福井工業大学）
野原祥吾（学生幹事）

3. 2026 年度の活動方針

- VLBI 懇談会シンポジウムおよび総会の実施（担当機関は今後調整）
 - 例年通り、役員会にて SOC チェアを調整後、SOC/LOC を中心に進める。
 - 天文台研究集会助成も申請予定。
- 役員会の組織および実施
 - 必要に応じて WG の活動（教科書 WG、VLBI 歴史 WG など）
- 通常業務（会費徴収、名簿管理、会計管理ほか）
 - 会費徴収についての議論を開始する（後述）
- メーリングリスト及び VLBI 懇談会 H.P. (<https://www2.nict.go.jp/sts/stmg/vcon/>)
 - 管理については、引き続き NICT が担当・運用する。
 - 今後、レンタルサーバ運用に切り替えることを視野に、2026 年度最初の役員会で WG を立ち上げて議論を開始する。
- 入退会時の連絡先は事務局長 (vcon.jimu@gmail.com) とする。

4. 2026 年度の予算案 [承認事項]

会計期間：2025 年 11 月 6 日から 2026 年 12 月 31 日

収入の部

収入合計	¥905,631	備考
前年度繰越	¥682,631	
会費収入（見込み）	¥223,000	正会員: 111×2,000 円（在外 16 名を除く） 学生会員: 1×1,000 円

支出の部

支出合計	¥905,631	備考（過去の実績）
2024 年度 V 懇シンポ集録作成・発送費	¥100,000	8.3 万円(2024 年), 8.2 万円(2023 年), 8.0 万円(2022 年)
2025 年度 V 懇シンポ集録作成・発送費	¥100,000	8.3 万円(2024 年), 8.2 万円(2023 年), 8.0 万円(2022 年)
2025 年度 V 懇シンポ経費	¥13,000	表彰の副賞代, 賞状代ほか
役員会旅費・関連経費	¥10,000	役員会は Zoom 開催が定着。
繰越予定	¥682,631	

5. 2025 年度の活動報告

5-1. 2025 年度 第 1 回役員会

- ・日時：2025 年 3 月 14 日(金) 09:00–10:30
- ・形式：Zoom によるオンライン会議
- ・参加者：佐野, 米倉, 関戸, 赤堀, 中川, 村瀬, 小川, 岳藤, 小林, 三澤, 寺家, 新沼, 今井, 小山, 青山
- ・議事内容：

(ア) 2025 年 VLBI 懇談会シンポジウムの開催地 (LOC) と SOC chair の決定

2025 年 VLBI 懇談会シンポジウムについて、開催地は鹿児島大学、2026 年は福井工業大学に打診する方針が決定された。また、2025 年の SOC Chair は鹿児島大学の今井氏に

決定し、SOC メンバー選定や研究会計画、集録作成を担当することとなった。

(イ) 総会で議論になった集録紙版の是非に関する投票の実施方法の議論

集録の紙版存続に関する投票方法について議論が行われ、役員選挙時の無記名リモート投票（案1）と Google フォームによる記名式投票（案2）の比較の結果、案2が多数（9対5）で採択された。今後は事務局が内容案を作成し、役員によるメール審議を経て投票を実施する方針となり、投票は次期役員選挙とは別の時期に Google フォームで記名式にて行うことが決定した。

・報告事項：

(ア) バックラッシュについての調査 [岳藤]

臼田 64m 望遠鏡におけるバックラッシュ低減の取り組みとして、正弦波制御による駆動を試みた結果、Az 方向のずれが従来の約 0.5 度から 0.2 度へと改善されたことが報告された。アンテナの予報値を調整し、動作を緩やかにすることで効果が得られたもので、他の望遠鏡への提供も可能であるとの説明があった。

(イ) 3月8日にフリンジテスト [今井]

3月8日に高萩-野辺山間でフリンジテストが実施され、電源装置の交換により野辺山の水素メーザーが復旧し、フリンジの検出に成功したことが報告された。VERA では 43 GHz での測定を予定している。一方で、86 GHz 系では LNA の一部が故障し、HEMT の在庫不足が判明したため、今後野辺山で代替部品の確認と交換対応を進めることとなった。さらに、EAVN への復帰については水沢で検討中であり、観測時間の確保方法についても今後調整する方針が示された。

5-2. 2025 年度 第2回役員会

・日時：2025 年 8 月 4 日(月) 09:00–10:30

・形式：Zoom によるオンライン会議

・参加者：小林、佐野、今井、寺家、青山、関戸、新沼、藤澤、石垣、米倉、赤堀、三澤、土居、小山

・議事内容：

(ア) 今年度 VLBI 懇談会シンポジウムの準備状況

2025 年度 VLBI 懇談会シンポジウムの準備状況として、世話人は今井裕 (SOC Chair)、寺家孝明、小山翔子、中川亜紀治 (LOC Chair) で構成され、シンポジウム HP が公開された。実施スケジュールが共有され、シンポジウム開催日は 11 月 6–7 日に、学生セッション開催日は 11 月 8 日となった。研究集会助成は国立天文台に申請済で、サブタイトルは「VLBI における新しい学際横断連携」。開催は天の川銀河研究センターとの共催で行う。今後は 2nd サーキュラーと参加登録フォームを準備予定。参加費は未定だが、茶菓代等の回収を検討中。11 月 8 日は国立天文台三鷹・水沢で停電予定だが、入来には影響がなく、シンポジウム本体への支障もない見込み。ハイブリッド開催を検討中で、6 日は午前からの実施のため前日入りを推奨している。

(イ) 選挙（役員選挙、シンポジウム集録可否）の準備状況

■ シンポジウム集録紙版継続の可否について

シンポジウム集録紙版継続の可否を問う投票について、小林会長から共有いただいた文章案を基に事務局がウェブ投票フォームを作成し、内容確認が行われた。コメン

ト投稿者の名前は公表する方針が再確認され、前書きにその旨を明記することとなった。メール不達への対応については、会員のメールアドレスは概ね把握済みであり、不明者についてはやむを得ないとされた。投票は本日付で承認され、締め切りはシンポジウム開催時期（遅くとも 9 月末）までとすることにした。投票文面にはこれまでの議論経緯を簡潔にまとめ、参考とする役員会議事録の開催日と場所を追記する方針が確認された。

■ 役員選挙について

役員選挙については、二年前と同様に、岡田氏・木村氏が準備された無記名投票システムを使用することが確認された。各機関代表者には選挙前までに代表者を決定するよう依頼があり、次期事務局は順番上、山口大学が担当する方向で藤澤氏が引き受ける意向を示した。事務局長は藤澤氏と新沼氏の間で調整予定。また、新機関として福井工業大学の参加可能性が議論され、宮本氏に対して小林会長が直接打診することとなった。選挙は例年通り 10 月実施予定で、9 月末を締め切りとして機関代表の変更や新規参入、事務局体制について各機関で決定、役員会を経て選挙に臨むという方針が確認された。

(ウ) 将来計画 WG への検討依頼の検討

VLBI 懇談会の将来計画ワーキンググループ（WG）の再始動について議論が行われた。現在活動休止中の WG を、新沼氏の座長のもとで再開し、3 年前にまとめられた将来計画の達成状況を確認しつつ改訂を行う方向で検討することが提案された。活動再開の目的は、国立天文台や天文学会で進む将来構想と連動し、VLBI コミュニティとしての方針を再整理することにある。新沼氏・赤堀氏からは、計画策定にあたりコミュニティのキャパシティやリソース配分、若手育成を考慮した現実的かつ発信力のある内容とするべきとの意見が出され、観測所関係者の立場からの意見反映の重要性も確認された。来年の VLBI 懇談会シンポジウムで改訂案を議論することを目標とし、小林会長が検討依頼文（チャージ）を作成して次回役員会（9 月開催予定）で議論を進める方針が示された。

(エ) 各ワーキンググループの活動状況の報告

各ワーキンググループ（WG）の活動状況として、藤澤氏より VLBI 教科書作成 WG の活動再開が報告され、今後引き続き推進していく方針が示された。小林会長からは、歴史 WG について担当者を中心に作業を進めており、完成した部分から順次ホームページに掲載している旨が報告された。現時点で活動中の WG は「教科書作成」「歴史」「将来計画」の 3 つであることが確認された。

5-3. 2025 年度 第 3 回役員会

- ・日時：2025 年 10 月 22 日(水) 21:00-22:30
- ・形式：Zoom によるオンライン会議
- ・参加者：佐野、関戸、今井、米倉、中川、寺家、小川、小林、小山、三澤、新沼、野原、松尾
- ・議事内容：

(ア) 今年度 VLBI 懇談会シンポジウムの準備状況（今井）

今年度の VLBI 懇談会シンポジウム準備状況として、今井氏より報告があり、公式ホームページおよび 3rd サーキュラーが公開され、プログラム・座長・ポスター・参加者リス

トの作成が完了したことが示された。参加登録および懇親会受付の締切は 10 月 31 日で、現時点で約 100 名（口頭発表 30 件、ポスター発表 40 件）の申し込みがある。会場は理工学系総合研究棟内に確保され、ハイブリッド開催を予定。ポスターボードや懇親会手配は中川氏が担当する。学生旅費は国立天文台支援金（50 万円）を活用し、満額支給は難しかため各研究室にも一部負担を依頼している。学生の発表に対しては例年通りポスター賞・口頭講演賞を実施する方針で、役員にも審査協力を依頼。ネットワークは eduroam を利用し、未登録者には ID を発行予定。受賞制度の意義についても強調され、今年も口頭発表賞とポスター発表賞を用意する。

(イ) 学生 V懇の貸切バス補助について (中川/野原)

学生 VLBI 懇談会について、中川氏・野原氏より報告があつた。今年度は入来の VERA 局見学を目的とした現地訪問を検討しているとのこと。参加予定は約 30 名で、6~8 人のグループに分かれ上部機器室の見学を行う。それに伴い、貸切バス補助を VLBI 懇談会に依頼したいとの打診があつた。貸切バス経費は 78,100 円で、安全管理面や故障機器への対応を含めた現地調整を鹿児島大学側で行う方針。費用負担について、議論の結果、学生一人あたり 500 円を徴収し、残額を天の川銀河研究センターの支援金から支出、難しい場合は VLBI 懇談会本体から補助することとした。なお、継続的な補助は慎重に検討する方針が示された。後日、参加学生一人あたり 500 円の負担に加え、残りの費用は天の川銀河研究センターから賄うことが決まった。

(ウ) シンポジウム紙版集録についての投票結果 (佐野) (資料 3)

シンポジウム紙版集録に関する投票結果について報告があり、投票総数のうち「不要」が 32 名、「必要」が 7 名であり、大多数が廃止を支持した（詳細は後述、資料 3 を参照）。役員会ではこの結果を踏まえ、紙版の廃止を提案として総会に諮る方針が確認された。中川氏からは、PDF 版作成に比べ紙版廃止による負担軽減効果は限定的であり、議論の焦点が適切でない可能性が指摘された。一方、関戸氏・寺氏からは、電子公開が主流となる現状を踏まえ、PDF 版への移行や DOI 付与の有効性が述べられた。会費の使途についても小山氏・新沼氏から意見があり、紙版廃止後に改めて検討することとなった。最終的に、紙版集録は廃止とし、今後 1 年をかけて会費の運用方針を議論する方針が確認された。

(エ) 機関代表幹事、役員選挙、次期事務局について (敬称略)

各機関代表者から、2026–2027 年度機関代表について以下のように申請があつた。会計監査員は前事務局長が実施することを確認した。また、会長 1 名と全国幹事 4 名は選挙、各機関代表は信任投票を行うことを確認した。会計監査員は、前年度の事務局長とすることを確認した。宮本さんについては、小林会長から連絡いただくことにした。当日欠席され、次年度機関代表がわからない方については、メールをお送りし両日中の返信を待つことに。返信がない場合は、昨年度の期間代表の方に依頼することで合意した。

国立天文台(NAOJ)水沢: 岩田悠平

情報通信研究機構(NICT): 関戸衛

国土地理院: 石垣真史

JAXA/宇宙科学研究所: 土居明広

国立極地研究所: 青山雄一

岐阜大学: 村瀬建

山口大学: 新沼浩太郎
茨城大学: 米倉覚則
鹿児島大学: 中川亜紀治
大阪公立大学: 小川英夫
東北大学: 土屋史紀
福井工業大学: 宮本祐介
学生幹事: 野原祥吾
次期事務局長: 藤沢健太 (山口大学)
全国幹事: 4名 (選挙)
会長: 1名 (選挙)
会計監査委員: 佐野栄俊 (前事務局長)

6. 通常業務

- メーリングリスト管理・ウェブサイト管理 (NICT に委託)
- 会員名簿管理、会費徴収
- 2024 年度の入退会 (2024 年 12 月 10 日から 2025 年 12 月 5 日の期間)
 - 入会: 13 名 (うち会費無し学生: 10 名)
 - 退会: 5 名 (うち会費無し学生: 2 名)
 - 現在の会員: 149 名 (正会員 127 名 (うち在外 16 名)、学生会員 22 名)

7. VLBI 懇談会シンポジウムの印刷版集録に関する投票について

VLBI 懇談会シンポジウムは、国内の VLBI 関連研究の成果の発表と議論、会員の親睦を図るために 1993 年から継続的に開催。研究の成果を記録に留め、その後の議論を活性化するために集録を作成し、印刷したものを会員各位に配布してきた。この印刷版集録を廃止するかどうかの議論。

● 経緯

- 2023 年度の VLBI 懇談会シンポジウム (新潟大学) 総会
 - ・集録の紙版の必要性について意見が出た。
 - ・紙版の作成にかかるコストや手間、会費の大部分が印刷費用に充てられていることが指摘された。
 - ・総会にて挙手いただいたところ、紙版不要の意見の方が多く、役員会にて審議することになった。
 - 2024 年度の役員会
 - ・紙版継続・廃止・中立それぞれの意見が交わされた。
- [紙版継続派の意見]
- 視認性・利便性: 全体像を把握しやすく、必要な情報にすぐアクセスできる
 - PDF 版のみだと探す手間がかかる。表紙や製本された形式が重要
 - 紙版があることで色々な人に渡すことができ VLBI 業界の発展にもつながる
- [紙版廃止派の意見]
- 現状、印刷費用が会費の半分を占めているため、費用対効果を再検討する必要
 - 少部数では単価が高くなる

- 若い研究者ほど紙版を必要としない傾向

[中立派の意見]

- 希望者のみ別料金で提供する（印刷版の希望者数やコストの試算が必要）
 - 会費をゼロにし、参加費として集録作成費を補うモデルはどうか
 - 会費を取ることで帰属意識、参加者であることの認識の向上に繋がる
- ・結論として集録そのものの存続は共有認識付だが、紙版継続は議論が必要ということになった。

○ 2024 年度の VLBI 懇談会シンポジウム（岐阜大学）総会

- ・集録の継続に対して強い反対意見はなかった。
- ・これまで通り紙版で継続する、紙版は廃止して PDF 版のみの 2 択で決を取り、紙版の廃止が多数。
- ・総会不参加会員の意向も踏まえるため、ウェブベースの投票を行い、結果を本総会で諮ることに。

● 投票結果と役員会からの提案

資料 3 にあるように、投票者の 7 割以上が集録印刷版の継続が必要でないと回答したことに鑑みて、役員会としては、紙版の廃止を提案として総会に諮る。

● 今後

紙版集録の廃止に伴い、VLBI 懇談会の会費の役割が変わるため、会費をどのようにするか（例えば金額を変更する、会費制を廃止する、学生旅費補助など使途を変更する）について、VLBI 懇談会会員に対してのアンケートを通して広く意見を集め、2026 年度のシンポジウム総会で議論する。

以降、添付資料

資料 1

2025 年度会計報告

会計期間：2024 年 12 月 10 日から 2025 年 11 月 5 日

収入の部

	2025 年度予算	2025 年度実績	2024 年度実績	備考
収入合計	¥869,917	¥692,631	¥779,803	
前年度繰越	¥647,917	¥647,917	¥605,729	
会費収入	¥222,000	¥44,000	¥174,000	
利息	¥0	¥714	¥74	
その他	¥0	¥0	¥0	

支出の部

	2025 年度予算	2025 年度実績	2024 年度実績	備考
支出合計	¥869,917	¥692,631	¥779,803	
前年度シンポジウム集録発行・発送	¥100,000	¥0	¥82,313	*1
シンポジウム経費(前年度)	¥10,000	¥10,000	¥49,023	*2
役員会旅費補助	¥10,000	¥0	¥0	
雑費	¥0	¥0	¥550	
次年度繰越金	¥749,917	¥682,631	¥647,917	

*1：2025 年度 V 懇シンポ（岐阜大学）集録は現時点で未発行のため、2025 年度実績は 0 円。

*2：2025 年度 V 懇シンポ（岐阜大学）表彰副賞代は、昨年度の総会での指摘に基づいて 2025 年度実績に組み替えた（例年通り）。それに伴い、2025 年度予算も 1 万円減額修正した。

会計監査報告

VLBI 懇談会会計簿、および支出に伴う領収書、帳簿、現金などの資産を監査した結果、問題ないことを認めます。

年 月 日
VLBI 懇談会 会計監査委員

資料 2

2026-2027 年度 VLBI 懇談会 役員選挙の結果

選挙の実施期間：2025 年 10 月 26 日(日)から 11 月 2 日(日)、ウェブ投票にて実施、有効投票数 60

会長

形式：自由投票

氏名	得票数
小林秀行	36
藤沢健太	11
3番目の方	3
以下省略	



事務局長(事務局)

形式：信任投票

氏名	信任	不信任
藤沢健太(山口大学)	59	1

全国幹事

形式：自由投票

氏名	得票数	
赤堀卓也	20	<input type="radio"/>
小山翔子	17	<input type="radio"/>
今井裕	16	<input type="radio"/>
岳藤一宏	14	<input type="radio"/>
秦和弘	13	
本間希樹	10	
元木業人	8	
村田泰宏	5	
萩原喜昭	5	
澤田-佐藤聰子	5	
以下省略		

機関代表および学生幹事

形式：信任投票

氏名	信任	不信任
関戸衛 (情報通信研究機構)	60	
青山雄一 (国立極地研究所)	60	
米倉覚則 (茨城大学)	60	
中川亜紀治(鹿児島大学)	60	
村瀬建 (岐阜大学)	60	
土屋史紀 (東北大学)	60	
新沼浩太郎(山口大学)	59	1
岩田悠平 (国立天文台)	59	1
石垣真史 (国土地理院)	60	
土居明広 (JAXA/宇宙科学研究本部)	59	1
小川英夫 (大阪公立大学)	60	
宮本祐介 (福井工業大)	60	
野原祥吾 (学生幹事)	60	

資料 3

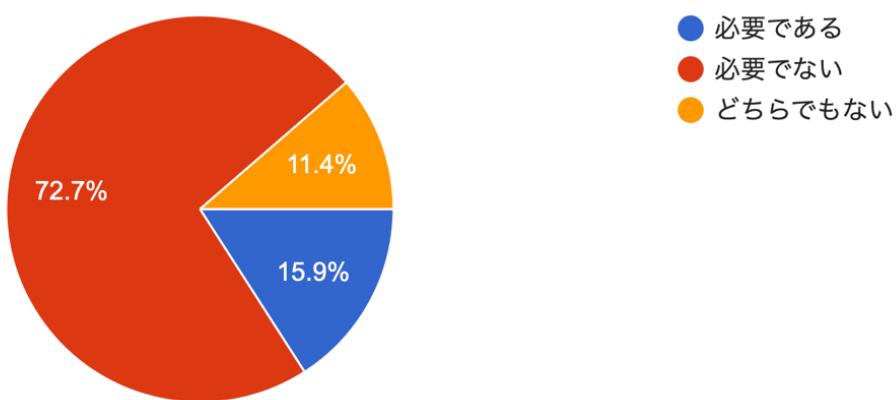
VLBI懇談会シンポジウムの印刷版集録に関する投票結果

選挙の実施期間：2025年10月4日から10月20日、ウェブ投票にて実施、有効投票数 44

結果： 必要 7 票(15.9%)、不必要 32 票(72.7%)、どちらでもない 5 票(11.4%)

VLBI懇談会シンポジウムの印刷版の継続は

44 件の回答



投票者からのコメント (括弧内は投票者名):

- “ここでの集録は、講演スライドそのものではなく、文章として書き改めたもののこと”をいう。この点については、これまでに集録を出さなかったり、スライドやポスターそのものを提出する人は実際にいるため、一部では形骸化していると感じる。したがって、講演スライドそのものではない集録の提出を必須とする、ことに関しては疑問である。また、"印刷版の集録の作成がシンポジウム SOC の大きな負担になってしまっており"とあるが、電子版にしたからといって SOC の集録作成の負担（取りまとめ等）が大きく減るとはあまり思えない（岩田悠平）。
- 電子版を継続的に保存と公開が可能なサーバーの確保が出来てから、印刷版の廃止であれば構わないと思います（寺家孝明）。
- 紙媒体の方が見易く個人的にはあると有難いが、印刷代や業者探しなどの負担が大きく、それを覆すほどの必要性を主張し難い（岡田 望）。
- 個人的にこだわりはない。紙版の有用性は理解できるが PDF 版があれば各自印刷するということでも良い（新沼浩太郎）。
- 「PDF 版だと、視認性・利便性に劣る、PDF 版のみだと探す手間がかかる」という懸念に対しては、講演者から収集された PDF ファイルを個別に公開するのではな

く、一つの PDF ファイルにまとめて目次もつける、文字検索できるようにしておくことにより、ある程度対処できると思います（土屋史紀）。

- シンポジウム世話人経験者による経験に基づいた意見です。集録を残すべきということが、多くの人から同意を得られているという前提での話です。集録作成に掛かる負担は、大部分のところ原稿の収集と編集作業によるところです。これは **SOC** 業務として避けられません。その次は、個人への配送作業です。しかしこちらは、名簿さえあれば **SOC** 以外の人にも依頼できることです。V懇会費の一部をその作業を依頼するための会員費に回すことは可能かと思います。また、紙版配送希望の方に確実に配達するため、事前に会員に希望を調査しておく（配送先の確認を兼ねる）のが良いでしょう。集録 PDF 版が完成したら、業者に依頼するのは、それほど大きな負荷ではないはずです。**SOC** をたった 1 名で引き受けることはまずないので、**SOC** メンバー間で分担して作業を進め、何とか紙版と V懇としての著作物を残し、研究機関・大学研究室で引き継がれればと思います（今井 裕）。
- 会費は集録をアーカイブしたクラウドサーバーのレンタル費用などに充てた方が利便性は高い。浮いた費用を院生への旅費補助に充てた方が業界の活性化に繋がると思う。／集録の原稿執筆に負担感がある。資料として残すのは天文学会年会の予稿集ぐらいのボリュームだとありがたい（今も予稿集ぐらいのボリューム+図表の可能性は排除されてない？）（林 隆之）。
- 講演スライドではないこともあり紙版があった方がよい気もしますが、昨今は論文・教科書（電子書籍があるものについて）も pdf 版で読む流れになっており、致し方ない気がします（徂徠和夫）。
- HP 上で pdf 版で取得できることも重要ですが、印刷版があると、VLBI 関係者の状況がよくわかって便利です。ただ、強固に印刷物存続を主張するわけではありません（亀谷 收）。
- 実際に印刷版を作成した経験から、pdf を作成後にも業者とのやり取り等かなりの負担があったので、VLBI 懇談会全体としてそのコストをどう考えるか、ということに尽きるかと思います。また、現在収録はフリーフォーマットでの提出になっていますが、pdf 版作成も含めて編集作業簡易化のためにテンプレートを作成して tex ファイルで提出とすれば LOC の負担も多少軽減されると思います（金子紘之）。
- 印刷版があると研究室に新しく入ってきた院生にも見せやすい、全体を眺めやすい、など、メリットはもちろんあると思う。ただ会費の大半を印刷代が占めているとなると、必要な人は各自で印刷する方向になってゆくのではないかと思う。紙版をやめた場合の会費の使途を全体でよく議論し、方針が決まってからやめるというのも良いかもしれない。いずれにしても会費は会報の発行やウェブサイト運用など、会員全員にメリットがあるものに使われるものが望ましいと思う（小山翔子）。
- 集録作成作業で一番大変なのは提出されたファイルにページ番号を振って 1 つにまとめる作業だと思いますが、自分で印刷すれば集録になるように 1 つの pdf ファイルにまとめた「電子版集録」の作成を継続していただく事を希望します。（web にプログラムが掲載されており、各々の発表タイトルから個別のリンクが貼られているようなものは、集録とは呼びません）（米倉覚則）

- 個人的には紙版の印刷配布を維持したい考えであり、そこに見いだしている意義は既に Google フォームに書かれたこととおよそ同じです。そのうえで以下に二つコメントします。 (1)発表内容を「文章として書き改め」て集めた「集録」の重要性は大多数の会員に認識されています。VLBI 懇談会において、SOC の仕事はこの集録の作成までであり、紙版の印刷発注は事務局の仕事になっているはずです。そうしますと、経緯に書かれた「...印刷版の集録の作成がシンポジウム SOC の大きな負担になっており...」の内容は理由として成立しにくいです。そして、電子版であったとしても集録を作ることに変わりが無ければ SOC の負担は今と変わりません。むしろ仕事が減るのは、印刷発注と納品までのお世話、およびそれらの発送をお世話していた事務局ということになります。 (2)「...印刷版の集録の作成がシンポジウム SOC の大きな負担になっており...」の表現に疑問を感じます。これまでこのやり方が続いてきたのは、集録の作成が VLBI 研究分野の活動性の向上に貢献すると考える前向きな姿勢があるからだと理解しています。SOC や事務局なんて、たまにその役割が回ってくる程度です。であれば、その時くらいは VLBI 分野全体に貢献する役割を果たすという程度の緊張感や義務感はあってもよいのではないかでしょうか。何でもかんでも負担が大きいから削減、という最近よく聞くフレーズは紙版の印刷配布の廃止理由の一つとしては、私には理解が及びません。毎年集録を編集される SOC および事務局の方々には、会員の皆さんに感謝していると思います (中川亜紀治)。
- 実務上 Web 配布で十分。若手は移動時に嵩張る (元木業人)。
- 収録は継続、印刷版は廃止/電子版へ移行で宜しいと思います。ただし会費は据え置き or 増額をし、活動費に充てて頂きたいです。具体的には他研究会への代表者の派遣/研究費補助など、V 懇でこれまでなかなか手の届かなかった事業です。以前立案されていたテキストへの積み立てでも構わないと思います。個人的には学生会員さんからも会費を頂いても宜しいと思います。discord でゼミをした場合、教員の方への謝礼金を捻出しても宜しいと思います。会費の減額には 1 会員として強く反対致します (貴島政親)。
- 紙版が必要な人は自身で印刷するように会費を割り引くのもいいのかなと思いました。(証拠として一部を事務局に郵送か、冊子の写真をメールで事務局へ送信?)。会費をゼロにし、参加費として集録作成費を補うモデルは SOC の負担が減らないのであまり良くないのかなと思いました (藏原昂平)。
- 収録を論文の参考文献にする場合は、印刷版か、将来もサーバーが閉鎖されない PDF か、どちらかが必要です。ただ、自分の手元に印刷版がほしいかと言うと PDF で構わないでの、保管用+希望者の少部数印刷? サーバー維持にお金がかかるなら会費を充てる? (山内彩)